

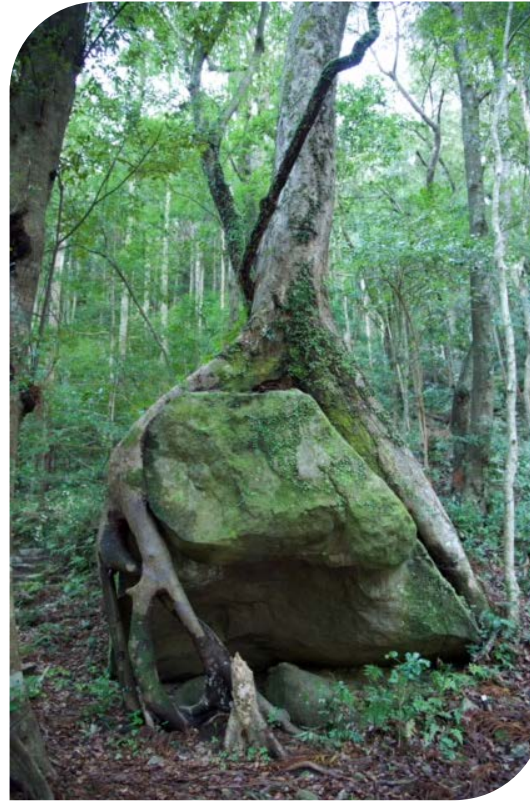
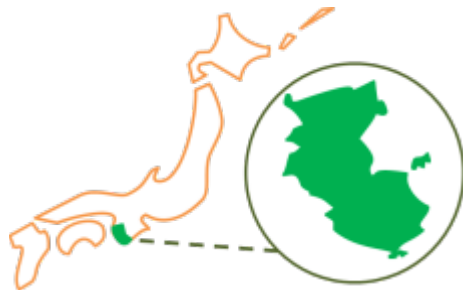
『森林・農山漁村を活かしたテレワーク・ 二地域ワークによる生産性向上』

～和歌山発・ワーケーションの提案

20%生産性向上を実現した豊かな環境とは～



和歌山県とは～森林率76.5%の緑豊かな地



<熊野古道：中辺路@田辺市>



<高野山町石道@高野町>



<那智の滝@那智勝浦町>



羽田空港 ⇄ 南紀白浜空港

約70分

羽田空港 ⇄ 関西国際空港

和歌山県「企業の森」による森林保全活動

企業の森…森林をフィールドとしたCSR、社会・環境貢献等をサポートする事業。

県・市町村・地元が保全活動を強力にバックアップ。PRや作業指導の他、テント等備品の貸出、森林体験などのレクリエーションの支援も行っている。

企業の取組に対する評価・感想

- 他の社員との親睦を深める良い機会。
- 社会貢献活動を目に見える形で実践出来るきっかけであった。
- 今回、植樹した桜が子どもと一緒に、無事成長していった欲しい。

平成14年度に全国に先駆けスタート
現在77企業・団体が参画

(森林保全活動)

(地域との交流)

世界遺産保全活動「道普請ウォーク」

企業・団体等のCSR活動や研修等の一環として、参詣道の維持・修復活動にボランティアとして参加して頂ける企業等を募集。

世界遺産の文化を育んだ紀伊山地は年間を通して雨量が多く、多くは山中の土の道のため、影響を受けやすい。次代に引き継いでいくため、人々の理解と協力による継続性のある保全活動が重要。



現在、信仰の道として登録されているものは世界で2例しかない貴重な資産。





「ワーケーション」とは

ワーケーション（欧米の技術者等の間で流行⇔日本では未浸透）とは・・・

「リモートワーク×有給休暇・研修等」を組み合わせ、地方へ訪問・滞在

⇒ 仕事を犠牲にせず、環境の良い地方で休息や自己研さんの実現

和歌山県は、本年より全国に先駆けて、ワーケーションを推進！

働き方改革

- テレワーク・柔軟な働き方の普及
- × 低い有給休暇取得率
(毎年50%未満で横ばい、米国等よりも大幅に低い)
(有給休暇をとらない主な理由は、同僚の負担増大や後で多忙になるから等)

地方創生

- 政府・企業の地方創生への関心の高まり
- × 東京一極集中型社会
- × 地方訪問の機会の少なさ
- × 地方での働く場所や人材の不足

ワーケーション：「リモートワーク×有給休暇・研修等」を組み合わせ、地方へ訪問・滞在（欧米の技術者等の間で流行、WSJやBBC等の主要メディアでも報道）

- ← リモートワークにより、仕事を犠牲にせず、有給休暇取得や研修等が実施可能。
- ← 地方に気軽に訪問することで、地方への関心喚起。地方企業・人材との交流活発化。

和歌山県は全国に先駆けてワーケーションを推進

→ 「和歌山＝ワーケーション」でブランディング、都内ICT企業・人材の訪問・滞在を促進

施策1 ICT企業が集積し、自然環境が良い白浜の環境をPR

施策2 和歌山県でのワーケーション実施を財政・ハード・ソフト面から全面支援

経緯・
課題

解決策

県の
取組

「ワーケーション」のかたち

ワーケーションは、個人でも団体でも、柔軟に実施可能、例えば・・・

- リモートワークと有給休暇を組み合わせ、社員個人が実施
- リモートワークと研修等を組み合わせ、業務として実施

社員個人で実施する場合

団体に実施する場合

実施例

午前：リモートワーク
+
午後（有給休暇）：観光、移住体験、ボランティア、スキルアップ等

午前：リモートワーク
+
午後（業務）：開発合宿、CSR合宿、チームビルディング合宿、etc.

リモートワーク

個人で仕事
ただし、電話会議等で
集団での仕事も可能

一定の所属やPTが丸ごと、
遠隔地で業務

休暇・活動

適宜、自由に活動

ソフト開発やチームビルディング
研修、現地主体とのボランティア活動
（CSR）の実施等

イメージ

リモートワーク

ホテルや
ワーキング
スペースで
仕事



休暇



仕事

休暇・アクティビティ



観光や地域
主体との
ボランティア活動

富士通株式会社様のワーケーション模様

参加人数：全国各地より若手25名（うち2名は幹部社員）

期間：11/15(水)～11/17(金)

概要：熊野古道ウォーク、道普請、グループワークを実施

1日目

移動&観光

バス:世界遺産センターへ
大阪→和歌山（田辺市）

世界遺産・熊野古道について学ぶ



熊野古道ウォーク後、歩いた道の
一部を修繕（道普請）



2日目

グループワーク

県立情報交流センター
ビッグ・ユーで遠隔業務と
グループワークを実施



3日目

ワーク&観光

午前：グループワークの
発表と遠隔業務



午後：自由行動



17:30 現地解散

ワーケーション実施イメージ



<午前：仕事>



<午後：企業の森活動 下草刈り、芋掘り@田辺市>



「ワーケーション」がもたらす効果

ワーケーション（地方への訪問・滞在）をすることで・・・

- 企業：生産性の向上、CSR推進、ローカルイノベーション創出等
- 社員：社員のワークライフバランス改善、能力開発等
- 政府：働き方改革・地方創生施策の推進

企業が促進する理由

- 生産性向上
（実例：セルフアースは白浜で20%生産性向上）
- CSR推進・ローカルイノベーション創出
（実例：都会・地域技術者間の勉強会開催→地域主体によるオープンデータ活用開始）

社員個人が促進する理由（働き方改革）

- ワークライフバランス改善
（実例：有給休暇取得率の向上）
- 能力開発
（実例：地域主体との交流や地域の魅力を体験、ボランティア等普段できないことを実践）

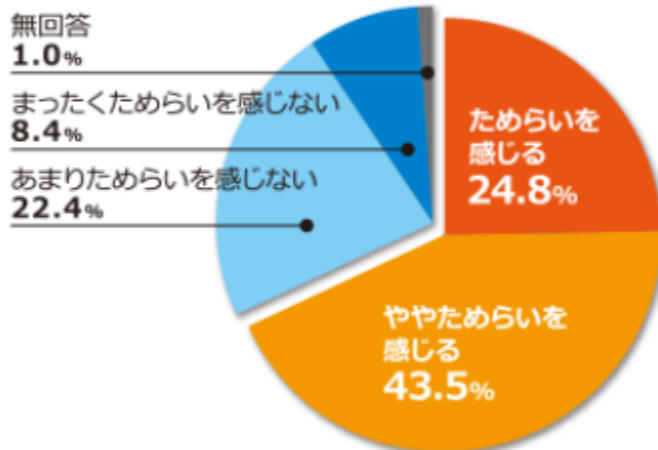
政府が促進する理由（地方創生）

- 交流人口拡大・移住促進・ICT人材誘致
（ワーケーションで地方訪問・滞在機会の拡大
＝プチ移住体験→移住に向けた心理的ハードル下がる）
- ICT企業等の企業誘致
（地方におけるリモートワーク増大
→サテライトオフィス設置等の検討進展）
- 都会の知・経験・人脈が地方へ
（実例：地域学生へのプログラミング教育支援、技術者との勉強会開催等）
- 和歌山県の実践の全国横展開
（白浜での実践・経験を公式化し、県内・全国に横展開）

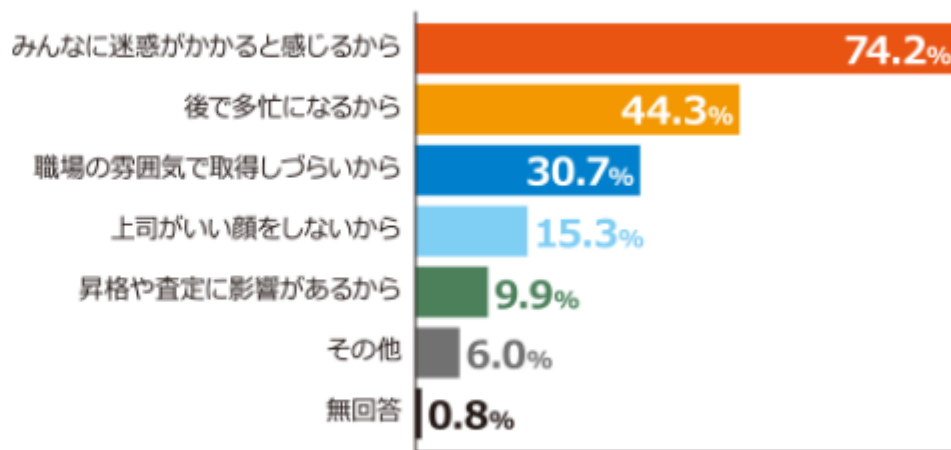
日本人が有給休暇を取らない理由

- 日本人の有給休暇取得率は先進国の中で最低レベル
 - 7割の日本人が有給休暇取得にためらいを感じている。
 - 職場に迷惑がかかったり、後で多忙になるから、有給休暇をとらない。
- ワークেশョンは、そのような理由への解決策になりうる！

◎年次有給休暇の取得へのためらい



◎ためらいを感じる理由(複数回答)



※資料出所：労働時間等の設定の改善を通じた「仕事と生活の調和」の実現及び特別な休暇制度の普及促進に関する意識調査（平成26年）

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/jikan/sokushin/jigyousya.html

S F D C様の白浜オフィスでの事例

S F D C様の事例（生産性20%向上）

- 最高の環境でゆとりある暮らしへ
- ベストプラクティス・失敗例等の共有
- 互いが仲良くなり、切磋琢磨する環境



生産性

商談件数

+20%

契約金額

+24%

- ・ ワンチームでの仕事への取り組み
- ・ 積極的なベストプラクティスシェアリング
- ・ リアクティブからプロアクティブな姿勢への変化

一人あたり月間64時間の新しい時間

ライフ

24h

社会貢献

10h

自己投資

17h

地域交流

13h



ワーケーションの実施場所～県立情報交流センター

ワーケーションの仕事場所として提供・ご案内

- 企業 十数社 約100名以上が利用
- フリースペースで個人利用、貸館施設でグループ会議や研修等に対応可
- 緑豊かな立地に加え、図書館・レストランやカフェ等の複合施設も充実



第62回 全国植樹祭 2011 わかやま

緑の神話 今 そして未来へ 紀州木の国から

式典会場：新庄総合公園

Big・U

新庄総合公園

キノピー

ワーケーションの推進結果

- 今年度はこれまで約 240 名が和歌山でワーケーションを実施。
- 全国報道を含め、17 回報道。
- 和歌山県だけでなく、他の自治体・主体からも同様の取組が生まれる。



ワーケーション等に関する東京フォーラム
～東京から132名が参加 (H29.8)



ワーケーションフォーラム in 和歌山
～地元関係者中心に91名が参加(H30.1)



和歌山県主催ワーケーション体験会も二回実施
～東京から計12社・17名が和歌山でワーケーション実施

ワーケーション体験会

- 3泊4日の期間で、首都圏の企業を白浜に招聘。滞在期間中は各種アクティビティも企画。
- 各社それぞれの形でワーケーションを実施、その結果を県に後日フィードバックいただき、今後の更なるワーケーション施策充実に活用（ニーズに応じた環境整備、イベントの実施やモデルプランの提示等）。

1 開催日程

- 第1回 平成29年10月3日（火）～同月6日（金）
- 第2回 平成30年1月17日（水）～同月20日（土）

2 参加者

- 第1回 ソフトバンク、レッドハット、阪急交通社等から7社12名が参加。
- 第2回 グーグル、シスコ、DNP、JAL、日本能率協会が参加。

3 期待される効果

- ・参加企業による、特に和歌山県での、継続的なワーケーションの実施
- ・社内及び社外へのワーケーションや白浜町のPR協力
- ・白浜町でのワーケーションのモデル化及びモデル公表に伴うワーケーション実施の促進
- ・閑散期の観光需要や中長期の滞在型観光の需要の喚起

4 滞在期間中の活動（基本的には各企業は自由にワーケーションを実施）

- 第1回 参加者及び地域主体との交流会、海岸清掃、道普請、白浜町のIT企業訪問
- 第2回 白浜町のIT企業訪問、参加者及び地域主体との交流会、マインドフルネス、つば湯、ワーケーション・フォーラム、柑橘類収穫

ワーケーション体験会結果

参加者からの満足度は非常に高く、以下のようなフィードバックもあった。

- 新しい働き方を体験するだけでなく、地域貢献活動等を通じ、和歌山県の魅力を知ることができ、次は家族を連れて訪問したくなった。
- 地域主体だけでなく、普段は付き合いのない他社とも、多様なアクティビティを通じ関係構築ができ、ネットワーキングの機会としても有用だった。



＜地ビールに舌鼓を打つ参加者＞



＜ぼんかん収穫体験＞



＜Big・Uでワーク＞



＜語り部から山と古道の歴史を学ぶ＞



＜世界遺産の熊野古道も参加者が修繕＞

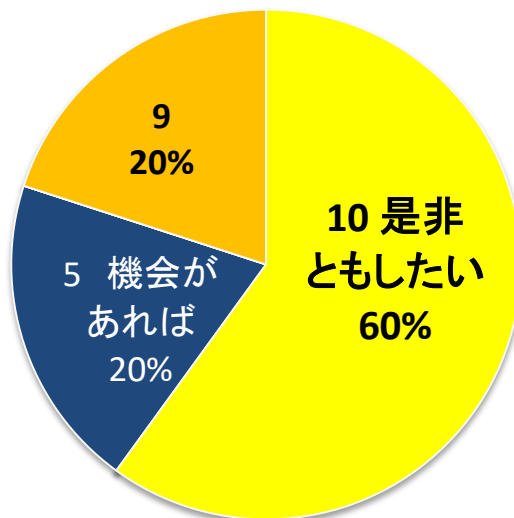
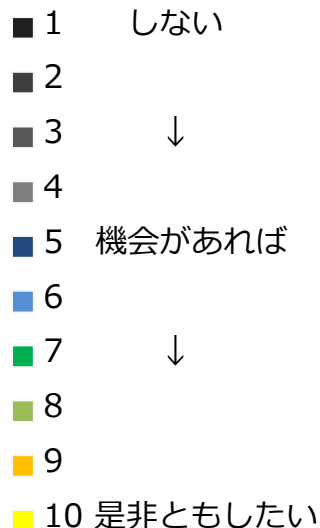
ワーケーションに対するご意見

ワーケーション体験者等からの主な意見

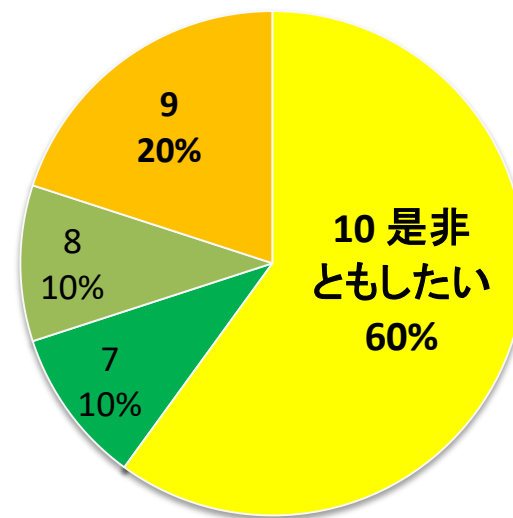
- 「仕事」と「休暇」の時間にメリハリをつけることで、仕事の生産性が向上した。
- 地域でしか知り合えない人々と交流することで、地域の魅力と課題を認識でき、また自分自身の価値の再発見につながった。
- ネットワークに接続する時間を定める等、メリハリをつけないと仕事が長引いてしまう可能性がある。

○ ワーケーション体験者に10段階で聞きました

またワーケーションを実施したいですか？



同僚等にも勧めたいですか？



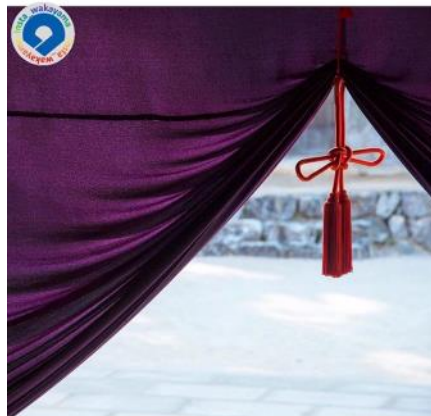
森林・農山村におけるワーケーションの新たな可能性

- 従来の観光ルートを延長することにより、アクセスが難しい森林・農山村部も訪問可能
- 環境の変化に伴う働き方の変化
- 観光よりも深い交流・活動による、社会への関わり方や意識・姿勢の変化
- 豊かな自然環境による心身のリフレッシュ



和歌山県のインスタグラム (insta_wakayama)

- 都道府県で初めての公式インスタグラム・アカウント（2015/8/25開設）
- フォロワー数は全国3位（秋田県、兵庫県）
- 投稿者参加型で投稿者自身にも和歌山県を知っていただいている
- Insta_Wakayamaイメージガールと連携し、インスタミートも実施





是非一度、
和歌山・白浜に
遊びに、仕事に
来てみてください
!!!

- ご不明な点等がありましたら、ご遠慮なく、以下の連絡先にお問い合わせください。
- いつでも御社まで説明に押しかけます！

和歌山県情報政策課

天野 宏（あまの ひろし）

Tel: 073-441-2416

**Mail: amano_h0003@
pref.wakayama.lg.jp**





ご清聴
誠に
ありがとう
ございました